



大阪府中央会情報連絡員報告

府内中小企業の景況

2023年
5月

1. 5月のDIは、全9指標のうち2指標が上昇、主要3指標は、収益状況21ポイント低下、売上高と業界の景況は、前月より低下している。
2. 5月末時点では、製造業では4指標のDIが低下し、また非製造業では3指標のDIが低下している。

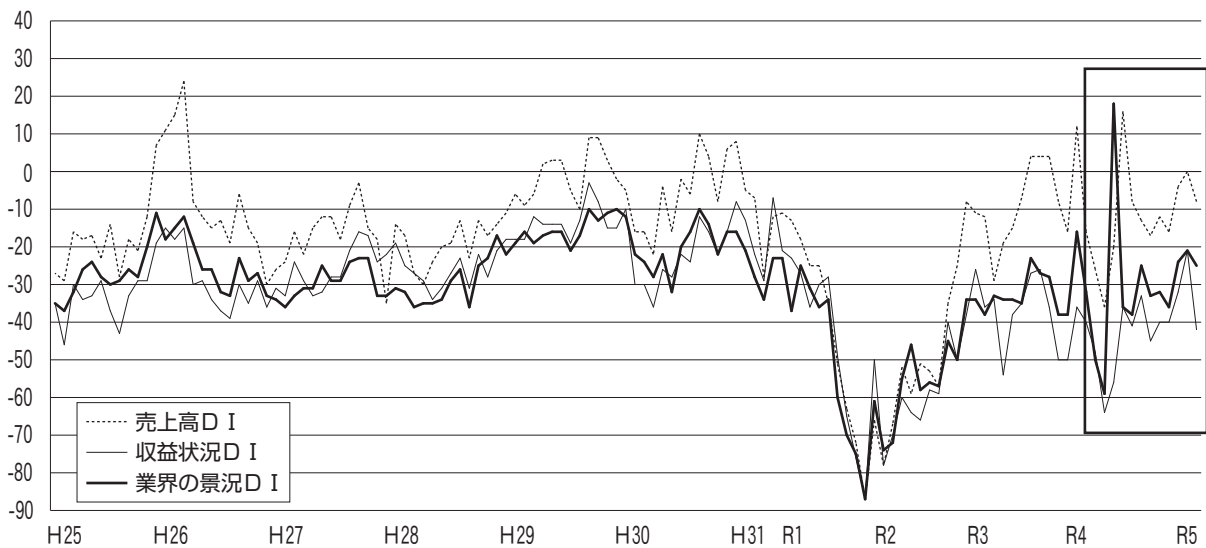
景況天気図

令和5年 5月分	全産業			製造業			非製造業			30以上
	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比	快晴
売上高	0 	△8 	↘ -8	0 	0 	→ 0	0 	△20 	↘ -20	10~29 晴れ
在庫数量	5 	18 	↘ 13	0 	15 	↘ 15	13 	10 	↗ -3	9~△9 うす曇り
販売価格	38 	38 	→ 0	36 	36 	→ 0	40 	40 	→ 0	△10~△29 くもり
取引条件	△17 	△25 	↘ -8	△21 	△29 	↘ -8	△10 	△20 	↘ -10	△30~△49 雨
収益状況	△21 	△42 	↘ -21	0 	0 	→ 0	0 	△30 	↘ -30	△50以上 大雨
資金繰り	△25 	△21 	↗ 4	△29 	△21 	↗ 8	△20 	△20 	→ 0	
設備操業度	△22 	△14 	↗ 8	△22 	△14 	↗ 8				
雇用人員	△4 	△13 	↘ -9	0 	△14 	↘ -14	△10 	△10 	→ 0	
業界の景況	△21 	△25 	↘ -4	△22 	△29 	↘ -7	△20 	△20 	→ 0	

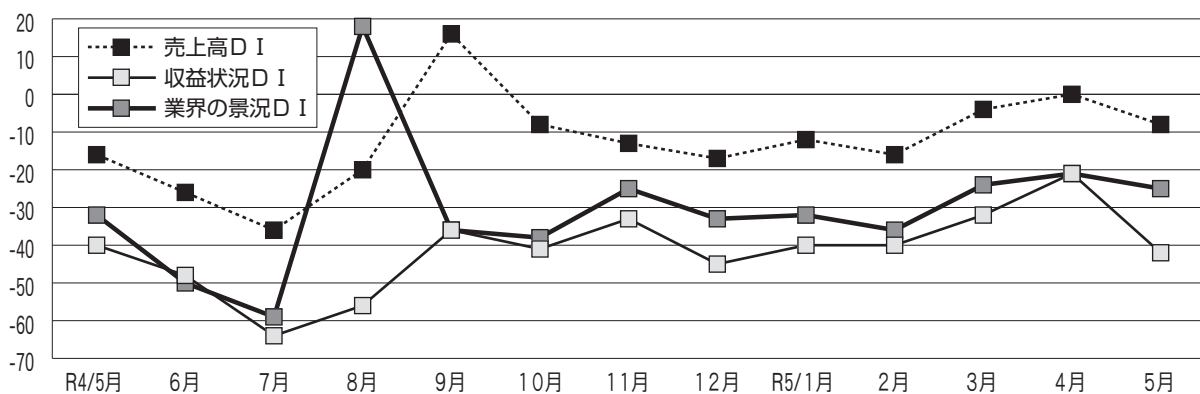
天気図の見方…各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を引いた値をもとに作成。その基準は右記のとおりです。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向に表しています。

DI (Diffusion Index: ディフュージョン・インデックス) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から、「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いて求める。

全産業 H25年5月～R5年5月のDIの推移



全産業 R4年5月～R5年5月のDIの推移



業種別概況 (5月分)

【製造業】



水産食料品製造業

コロナ5類移行、海外や国内の観光客も増加し、注文も増加した。しかし、電気代等の経費も増え、また、円安や物価高騰の影響で仕入れ価格も高騰。当組合員も価格転嫁したいもののできない状況が続いており、売上は上がっても利益が上がらない状況である。ここ最近、海外の企業様や外資系のホテルの方などから市場見学依頼が増えてきている。但し、見学後に朝食等を食べたくても英語表記されたメニューや海外の方に対応した飲食店が少なかったりと残念がられたりする。



帽子製造業

天候が、帽子業界にとって恵まれ、月を通して堅調であった。



木材加工業

前年同月と比べ売上高は微増しているが、依然として、需要と供給のバランスが悪い。広く一般ユーザーへのPRが必要不可欠であると考えており、新たな需要拡大を目指し鋭意準備中である。組合員の業況についても、同じく景況は悪化しており、新たな取り組みを試み試行錯誤し、現状打破を目指しており、市とタイアップをし大規模なイベントを企画中である。



古紙収集加工業

5月も古紙の発生は悪い。新聞古紙、雑誌古紙はこの数年間右肩下がりでの発生量となっている。段ボール古紙も国内製紙メーカーが減産をしており購入量の調整をしているため、一部の問屋では在庫が増加している。家庭紙の古紙在庫量は落ち着いて来たが、今後の発生量に不安もあり安定感はない。

輸出市況においては、中国国内の大手メーカーによる減産が続いており、段ボール古紙の需要は5月も低調。韓国による新聞古紙、雑誌古紙の高値購入も今は一服しているが、世界的に非発生期となる夏場に向け不安定な様子が窺える。

製本業

以前はGW前まで仕事が廻っていたが、今年はその気配がなく、その延長線上の5月期は当然、仕事がない。深刻な問題として、企業の退会が止まらず、予備軍も大勢いる。コロナ禍の影響が今頃出てきたのではないかと思う。

セルロイドプラスチック製品製造業

前月比30%ダウン、前年比も30%ダウンと、異常な程、低調な稼働状況が続いている。市場に受け入れられる新商品の開発力が無い故の稼働率低下（開発力の無さ、市場ニーズを把握できないレベルの低い営業力）なのか、様々なイベントが完全復活しないが故の荷動きの低調さに起因するのか、受注量がコロナ前と比較し激減している中小企業はもがきにもがいている。

石鹼洗剤製造業

洗剤全体では前年を上回っているが、品目にバラツキがあり、石けん（手洗い用液体）、漂白剤（酸素系）が好調に推移している。組合員全体として、原材料価格の落ち着き、価格転嫁の浸透によって、前年対比で販売数量よりも販売金額の伸びが大きくなっており、景況は好転しているように見えるが、経費増の吸収については厳しい状態は変わっていない。

鍛造業

生産量において、5ヶ月連続して前年を下回り、全体として、先月同様6%程度の前年割れとなった。主要の自動車用が若干回復傾向にあるものの5%程度の前年割れとなり、もう一つ主要の産業機械・土木建設機械用が10%あまりの前年割れとなった。自動車業界の生産の正常化が進みつつあるが、先行き不透明である。

建築金物製造業

燃料価格、原材料費をはじめとする諸物価の高騰や物流コストの高止まり、政府による賃上げ要請など業界各社をとりまく経営環境は依然として厳しい状況にある。また、ウクライナ情勢の長期化、世界経済減速懸念など、今後も景気の下振れが予想されるため、しばらくは先行き不透明な状況が続くものと予想される。4月の新設住宅着工戸数は、67,250戸で前年同月比11.9%減と3ヶ月連続の減少となった。そのうち大阪府の同着工戸数は前年同月比20.5%減と全国平均を下回った。一方、4月の民間非居住建築物の着工床面積は、1,030万㎡で前年同月比8.6%減と3ヶ月連続の減少となった。建築資材をはじめ原材料価格の高騰が続くなか、今後も動向を注視していきたい。

産業機器製造業

景況は、少し明るいきざしも出てきた

印刷製本機械製造業

5月18日・19日に大阪で開催された業界展示会は

予想を上回る程度の盛況にまで回復していたが、これが直接の受発注につながるかが今後のカギとなる。全てのコストが上昇しているが、それを完全に商品価格の上昇でカバーはできていない。展示会を契機として、実際の受注が回復するかが今後の焦点である。

【非製造業】

電気機器卸売業

概ね価格転嫁は進み売上・粗利ともに前年同期比より増加。業界全体としては、安定した業績推移を確保できている。一部商材については、不足感があるが総じて前年同期比では好転している。各組合員ともに、売上・粗利とも前年同期比10%以上UPしており、好調を維持出来ている。また、ベースUPについても企業間の格差見られるものの多くの組合員が実施している。各社ともに、労働需要に対して人出不足感は強く求める能力や資格、労働条件などのミスマッチの解消に向けての改革・取組等模索している状況にある。

衣服・身の回品卸売業

売り上げはコロナ禍に比べやや持ち直し感はあるものの、採算面は厳しい状況が続く。当組合の主力組合員が、長引くコロナ禍の影響を受け、売上が半減し資金繰り破綻のため廃業、自己破産に追い込まれた。負債総額15億円で団地内では近年に無い大型倒産となった。

地質調査業

業界の景気状況として、例年通り官公庁からの発注量はまだまだ少なく、業務処理は余裕がある状態である。組合員へのヒアリング（立ち話）においても、まだ発注量が少なく、夏ごろから、増加するのではとの観測がある。

警備業

昨年同月と比較して同等の売上げだった。慢性的な警備員不足が続いている。

建設業

仕入値が高騰している。客からの問合せに伺うも、見積りみが多い。組合の在り方について、意見を聞く機会があり、現状では組合自体が成り立っておらず、名前だけで自然消滅してしまうと不安の声があった。

タイル工事業

4月以降、荷動きは悪くなっているものの、販売価格は上昇しているため、その分が相殺されている。昨年同様の売上、収益ではあるが、諸物価の値上げは止まりそうもなく、来期に向けての収益確保に策を練っているところである。

貨物運送業

問い合わせ件数、見積依頼件数および受注件数は微減となったが、販売価格が上昇したため売上高は前年と変わらず、資器材および燃料の価格高騰で経費が増加しているため収益はやや悪化となった。